



## 第46回会合における構成員からの主なご意見

---

2023年9月19日  
事務局

## 情報的健全について

- アテンション・エコミーを取り巻く様々な問題について、横串を通していただき、例えばこれまでネットワーク中立性の関連では、ゼロ・レーティングとアテンション・エコミーはネットワーク中立性側において指摘はされていたわけですが、それは単にゼロ・レーティングのサービスをどういう条件で許可すればいいのか、ネットワーク中立性をどう考えていけばいいのかという中で、実はそれはアテンション・エコミーの問題であり、強いコンテンツについてそれを無料にすることが、どれほど情報を集中させてしまうのか、インターネットの少チャンネル化みたいなことをもたらすのかということ、ネットワーク中立性側からではなくて、アテンション・エコミー側から御説明いただくのは非常に重要なことだと思っていますし、それはユーザーリテラシーについてもそうだと思います。ユーザーリテラシー、それこそデジタルシティズンシップについて、これは山本先生に親会の座長をしていただいているわけで、なので、それは心配はないわけですが、ただ、ユーザーリテラシーという中で話をしていくと、それは誹謗中傷をしないように気をつけましょうねなど、ユーザーとしてのリテラシーにどうしても話が行きがちなのでございますけれども、先ほど御説明いただきましたように、こちら側から、情報的健全というところから説明するとなると、それはユーザーとしてのリテラシーというよりも、インターネット空間をどう理解するか、ビジネスモデルをどう理解するか、アテンション・エコミーの陥穽とは何かということを理解できているかということがリテラシーということになります。ユーザー側から、今まさに場合によっては操作されたり誘導されたりする可能性を持っている、情報的健全を損なってしまうかもしれないユーザー側から、ネットワーク中立性であったり、リテラシーの話であったりということをしていただくことは、非常に重要な、大きなことだったのでないかと思います。【森構成員】
- 鳥海先生の御報告の中に、今後の取組として、あらゆる学問領域について連携を考えていらっしゃるというお話が出ておりましたけれども、特に最近私自身が気になっているのが、子供の成長期の脳にSNSが与える影響がとても大きいということで、特にそういう子供の成長について関心を強めている医学の領域、あるいは心理学といった領域との連携が必要ではないかと常日頃思っているところ、この分野との連携について何か成果がありましたら、早めに周知し、公表いただくことが必要ではないかと思っております。【大谷構成員】

## 情報的健康について

- アドベリフィケーションについて、ここでは私が比較的専門的にやっているところですので、ちょっとだけ補足したいと思います。というのが、アドベリフィケーションが重要であるという言い方はあまり好ましくないと実は思っています。現状では機能としては必要なことではあります、本来これは、あってはいけないこと、必要のない機能で、広告関連の事業者が解決すべき問題というのが本質的なところだと思っています。アド Fraudなどが起きると自身自身がネット上での大きな問題だと思っていますので、アドベリフィケーションが重要というよりは、どちらかといえば広告関係者に対して、問題をきちんと解決しなさいということ促す方向性のほうがよいと個人的には思います。【寺田構成員】
- 偶然性について、前回の会議で、異なる情報を掲出しても無視されるのが一般的というようなお話がありまして、多様な意見を見せるというだけではなかなか難しい一方で、そうすれば、多様なそういった情報を摂取しないということが不健康であることの一つの健康度の指標になるのかとは思いました。【寺田構成員】
- 公共的アルゴリズム、公共的な視点を組み込んだレコメンデーション・システムについて、御指摘のようなお話は問題があると思いますし、山本先生のお話のとおりだと思いますけれども、レコメンデーション・システムに公共的なものとそうでないものがある、それを切り替えるということだけではなくて、もちろん、実装に向けた今後の取組のところで、提示される情報の偶然性、セレンディピティや多様性を保つとお書きいただいていますので、含意されていることだとは思いますが、アルゴリズムありきでその中から選択するというのではないのかとっておりますし、また、さらに言いますと、その前提としてユーザーの、我々の情報を全部把握される、収集されることは前提で、それでレコメンドをするしないということだけを問題にするというのも違うのかと思っております。ニューラル・デコーディングについてのお話がありましたけれども、そういうことをされたら、やり方によってはしゃれにならないと思う一方で、現時点における情報の把握、外部送信を中心とした技術によって、一人一人の情報が様々に把握されて、集積されて分析の対象になっているという、かねてからの山本先生の御指摘のところあまり解決しておらず、それが意味、ニューラル・デコーディングに近いような効果を生んでいる、マインドハッキングの前提になっているということはあると思いますので、そういったことを一人一人がコントロールできる、場合によってはオプトアウトできるということも情報的健康の前提になるのかと思いました。【森構成員】